

設備工事情報シート	電 気	Ⅱ－E－2	制 定	2006年4月1日
			改 訂	2014年2月1日
Ⅱ. メーカー情報	接着式ケーブル支持具		未来工業編	

1. 目的・概要

ケーブル配線工事において、配線ルートの変更や追加などに対応できるよう接着式ケーブル支持具での施工が増えている。接着式ケーブル支持具の特性を十分に認識し施工する必要がある。

また、発泡断熱材壁面部のケーブル配線も施工状況に応じて適切に施工する必要がある。

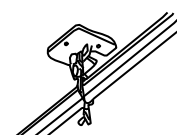
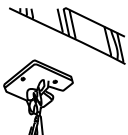
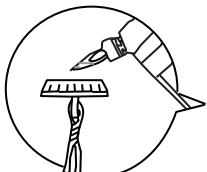
以下に、未来工業㈱の接着式ケーブル支持具及び発泡断熱材用ケーブル支持具を紹介する。

2. 接着式ケーブル支持具

(1) 種類及び施工手順

●バインド線タイプ





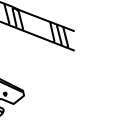
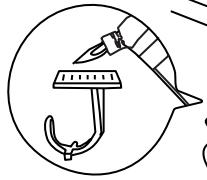
①接着剤保護シールを剥がし、トーチランプ(ガス・ガソリン)でケーブル支持具の接着剤を完全に溶かして天井面にしっかりと貼り付ける。
※保護シールは、接着剤が剥がれないよう、注意して剥がす。

②貼り付け固定後、バインド線でケーブルを固定する。

専用工具(ペッタースティック)を使用する事により、脚立を使用することなく、貼り付け作業

●フックタイプ



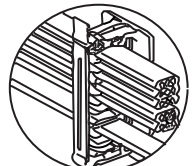
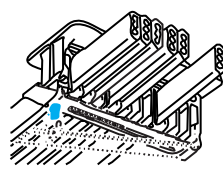
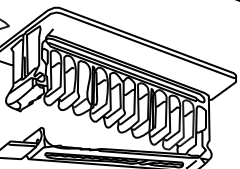
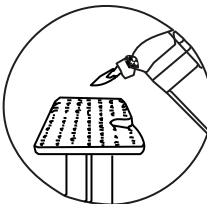


①接着剤保護シールを剥がし、トーチランプ(ガス・ガソリン)でケーブル支持具の接着剤を完全に溶かして天井面にしっかりと貼り付ける。
※保護シールは、接着剤が剥がれないよう、注意し

②貼り付け固定後、ケーブルをのせ結束バインド等で固定する。

●ホルダータイプ





①接着剤保護シールを剥がし、トーチランプ(ガス・ガソリン)でケーブル支持具の接着剤を完全に溶かして、天井面にしっかりと貼り付ける。
※保護シールは、接着剤が剥がれないよう、注意して剥がす。

②貼り付け固定後、VVFケーブル(10本迄)をホルダーにしっかりとめ込みカバーをはめる。

※壁面にも使用できる。

適合ケーブル：VVFケーブル
(1.6×2C、2.0×2C) ×10本迄
2.0×3C ×9本迄

(2) 注意事項

①50℃以上になるような場所での放置、保管をしない。※接着剤保護シールが剥がせない場合がある。特に夏季の自動車内等への置き忘れに注意が必要。

②取り付け面の離型剤、ホコリ、水気等を十分に取り除く。

③取り付け面の温度が低い場合は、十分に温めて取り付ける。

④接着時の気温が低い場合(5℃以下)はご使用を避ける。接着力が非常に低下する。

⑤接着直後はケーブルを引っ張る等、製品に負荷がかかる作業は行わない。

⑥適合ケーブル以外のものを取り付けない。

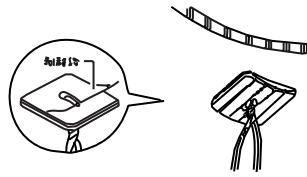
資 料

3. 粘着テープ式ケーブル支持具

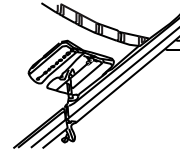
(1) 種類及び施工手順

許容静荷重15N [1.5kgf]

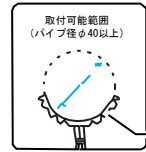
※荷重は取付面の状態（剥離材、ホコリ、水気等）により異なる。



① 粘着テープの離型紙を剥がし、天井面にシッカリ貼り付ける。



② 貼り付け固定後、バインド線でケーブルを固定する。



※曲面等にも使用できる。

(2) 注意事項

① 50℃以上になるような場所での放置、保管をしない。

※粘着テープの剥離紙が剥がせない場合がある。特に夏季の自動車内等への置き忘れに注意する。

② 粘着テープは、接着面の汚れ等をキレイに拭き取ってからしっかり押さえ、接着固定する。

※貼り直しは行わない。

③ 低温時は粘着テープの初期接着力が低下する。

※粘着テープを剥離紙の上から手等で温めてから作業する。

④ 適合ケーブル以外のものを取り付けない。

4. 発泡断熱材用ケーブル保持具

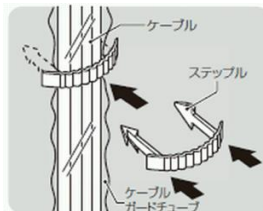
(1) 種類及び施工手順

① 発泡断熱材屈曲・壁面用（適合発泡断熱材厚：20mm以上）※天井面へは使用しない



許容静荷重9.8N [1kgf]

固定爪



① ケーブルガードチューブで保護したケーブルをステッブルで断熱材にしっかり押し込みます。

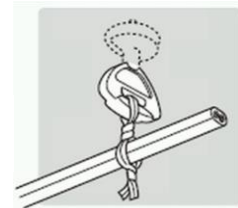
② 発泡断熱材壁面用・天井面用（適合発泡断熱材厚：20mm以上）



許容静荷重 天井面9.8N [1kgf]
壁面20N [2kgf]



① バインドハンガーを断熱材に押しながらねじ込み固定します。



② ねじ込み固定後、バインド線でケーブルを固定します。

(2) 注意事項

① 発泡断熱材は密度の高い(0.03g/cm³以上)ものを使用する。

② ケーブル保持具の近接ではケーブルを曲げない。※外れる恐れがある。

③ 発泡断熱材にケーブルが接触しないよう施工する。

※内線規程「3102節：低圧配線方式に間する共通事項」の3102-3条2項、資料3-1-14を参照。

④ 取り付け間隔は1m以下で施工する。

⑤ 適合ケーブル以外のものを取り付けない。

⑥ 施工後はケーブルを引っ張る等、ケーブルに負荷がかからないよう注意する。

※発泡断熱材から抜ける恐れがある。

⑦ ケーブル支持具が抜けた場合は、一度押し込んだ箇所を避け、別の箇所に固定する。

※強度が極端に弱くなる。

5. 問い合わせ先

電路支持材：未来工業株式会社

<http://www.mirai.co.jp/>

岐阜県大垣市外・輪之内町 〒503-0295

TEL 0584-68-0001 FAX 0584-69-3900